

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆 地殻大型地震の可能性前兆 現況報告  
前兆極大～終息関係 再検討 → 発生時期について再検討

2008年07月より7年間継続と云う観測歴上最長継続前兆群で複数極大ならびに7段階のステップ状変動を示した「大型規模地殻地震推定前兆=No.1778」の続報、現況報告並びに再検討の報告です。

現在までの解析と前兆変化認識から右図Aの様な前兆変化関係の可能性を考え、8月1日±2時期に地震発生の可能性が示唆されることを報告して参りました。

しかし、本日8月1日現在も前兆が完全終息せず、弱い状態ですが、継続出現していることが観測されています。

前回の報告で、前兆が終息しない理由として考えられる三つの可能性を記しました。

- ①各極大に対し直前特異出現の可能性
  - ②前兆変化認識が間違っている可能性
  - ③8月1日±に極大出現で第8階へ移行
- ①の各極大に対して直前特異が出現している可能性につきましては、8月1日現在昨日と変わらずに前兆が継続している点を説明できません。

③の8月1日±に極大が出現し、又は新たな前兆が出現したし、第8階へ移行する可能性につきましては、本日の観測で、新たな前兆の出現も認められませんが、本日が極大となる前兆変動も観測されておりませんので、考えにくいと思われます。

残る②の前兆変化認識(極大と終息の関係認識がズレて認識している等)が間違っている可能性は否定できません。

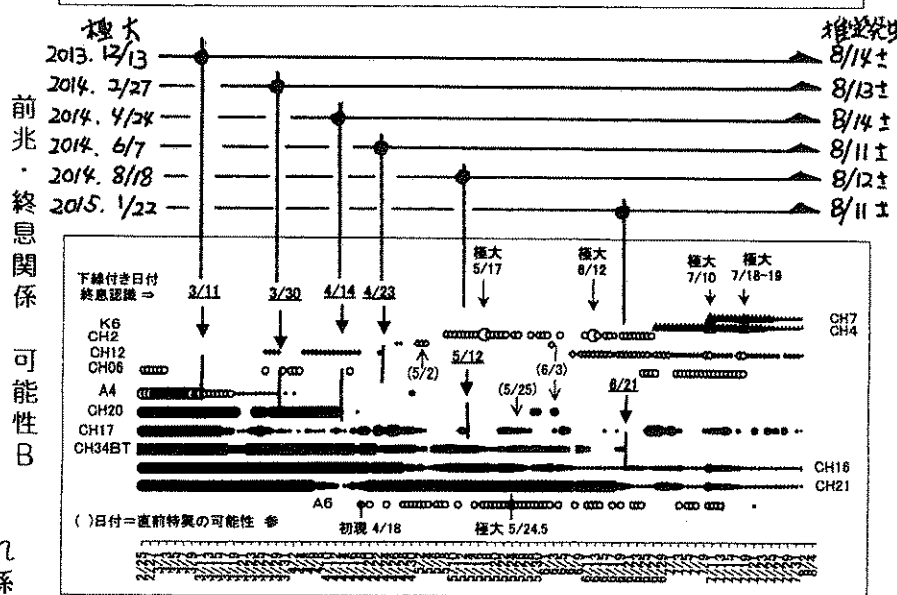
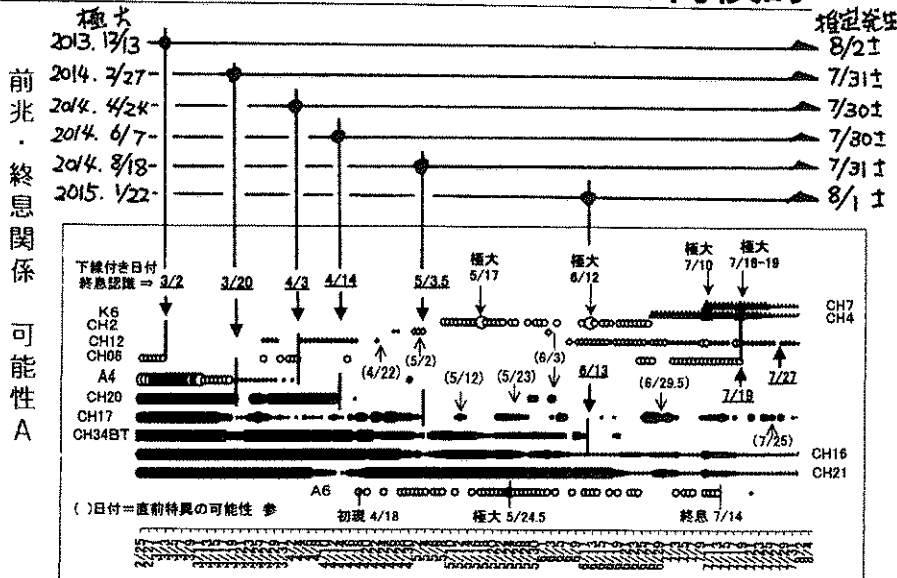
そこで、②の可能性についてあらためて本年2月末～現在までの前兆出現状況図を見直し、極大～終息の可能性を検討してみました。

右図上のAは、8月1日±発生が導きだされた関係図です。右図下のBは、再検討した関係を示す図です。いずれも前兆の時間変化経験則  $T_{\text{fap}}:T_{\text{pp}}=6:1$  経験則より、 $T_{\text{fap}}:T_{\text{map}}=20:13$  経験則の関係を使用して出る  $T_{\text{map}}:T_{\text{pp}}=3.9:1$  の比率経験則を使用して、発生推定時期計算。

右上図Bの再検討結果では、8月13日±2発生の可能性が示唆されることとなります。仮にこの関係認識が正しい場合には、8月10日以前に地震発生となる可能性は否定されることになり、最終認識極大7/18-19 に対しては、静穏期突入時期は8月7日±が計算されることとなります。つまり前兆は8月7日±まで継続する可能性が計算される次第です。

現在の前兆出現状況及び変化を鑑みて、以前の様に、発生時期が数ヶ月先となる様な根拠前兆は確認できません。

上図Aの関係からは、現在までの推定発生日と実際の誤差が最大で±3日であること、7/30±が計算されている関係もある為Aの関係の場合は、8月3日までに発生の可能性が示唆される



こととなります。3日まで発生しない場合は、上図Bの関係の可能性が考えられ、8月13日±2発生の可能性が示唆されることとなります。8月と2月は一年の中でも白道と黄道が大きくズれるため、地震数全体も大型地震発生も少ないことが知られており、8月半ばに発生となる可能性は過去の統計からは考えにくい様にも思われますが、上の様な前兆変化認識が正しい場合には、8月中の可能性が示唆されることとなります。

あくまでも発生時期が数ヶ月先となる様な根拠前兆は確認できません。8月3日返に発生なく、8月7日±に前兆終息変化が観測されればBの可能性濃厚となります。本日現在の前兆を見る限りでは、Aの関係の可能性は低いことが示唆されます。8月8日時点で前兆継続の場合は更に再検討します。前兆変化解析が間違っていた可能性について深くお詫び申し上げます。

C) Copyright 2015 YSBO 八ヶ岳南麓天文台